

うだるような
夏の日差しの中
僕はジュースの
飲み過ぎで
強烈な尿意を
もよおしていた

しかしココは
見渡す限り
田んぼや山しかない
ど田舎であり
公共のトイレなどは
数えるほ程しかない

村の男性は
こんな時に
草むらに隠れて
用を済ませ
られるから
楽である

しかし女性は
さすがに
家までは我慢
するだろう…

あっ

そう僕は
思っていたの
だが……

そこ
にいたのは
肛門から野太い
ウンチを出して
る
真っ最中の
目が覚めるよ
うな
美少女であ
った

え

夏の
夜の
ほろ
ろ
び

ニクニクニクニク

パスタ





お願いっ

ピョッ
クッ

このことは
誰にも言わ
ないで!



キラ

別に言いふら
したりなんか
する気はない
んだけど...



お願いっ
松本くん

僕って
バレてる...

ウ...

こんなことが
みんなに知ら
れたら私...
もう学校に
行けない...



何でも...
言うことを...
聞く...



お願いっ
何でも言うこと
聞くから!



イヤッ

ちよ、ちよっと待ってて

向こうむいててよ



キヤッ

ねね、え

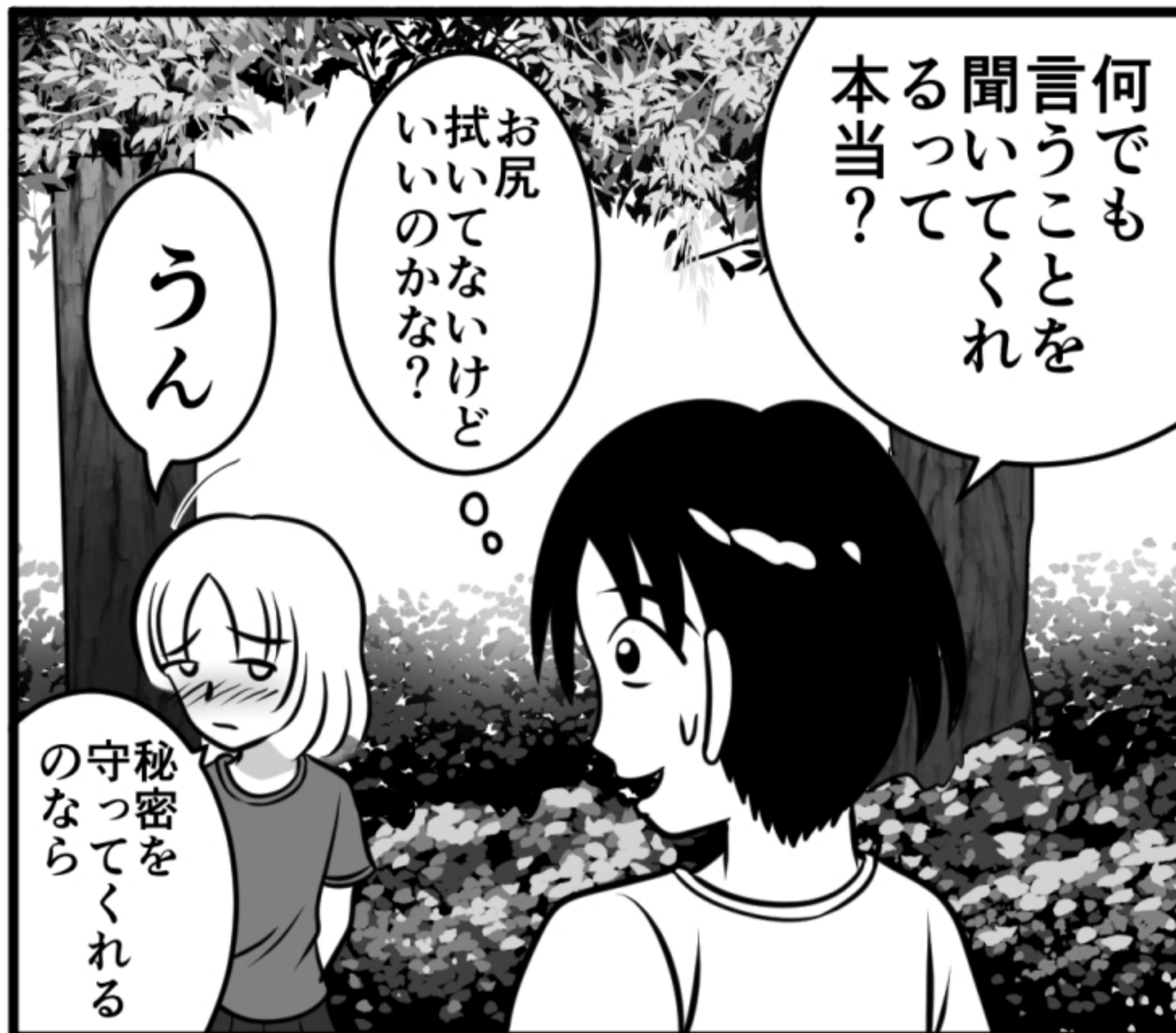
がサ

がサ



この時の僕はあまりの暑さと強烈な尿意で頭がおかしくなっていたのかもしれない

じゃ、じゃあさ



何でも言うことを聞いいてくれるって本当？

お尻拭いてないけど。いいのかな？

うん

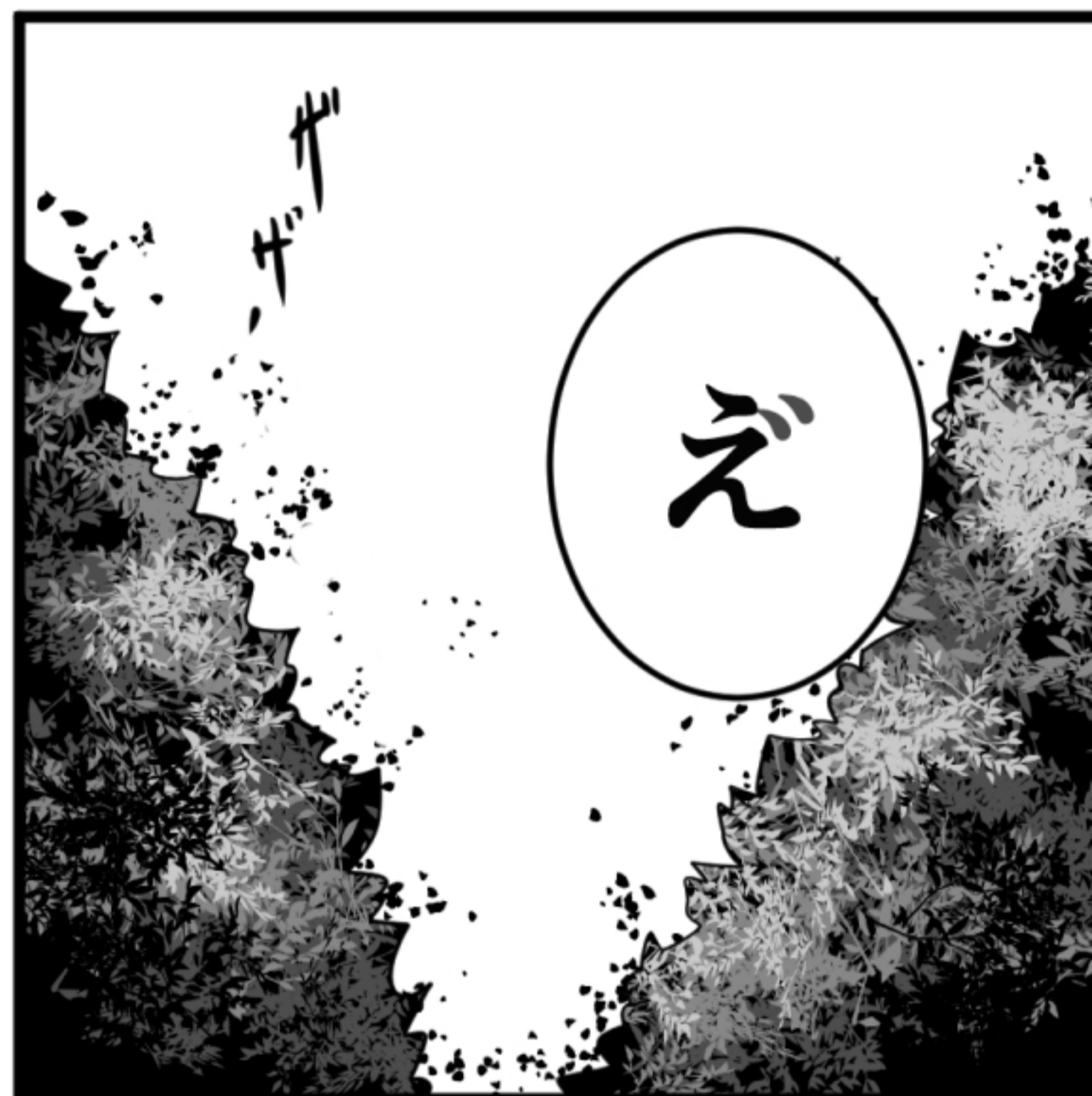
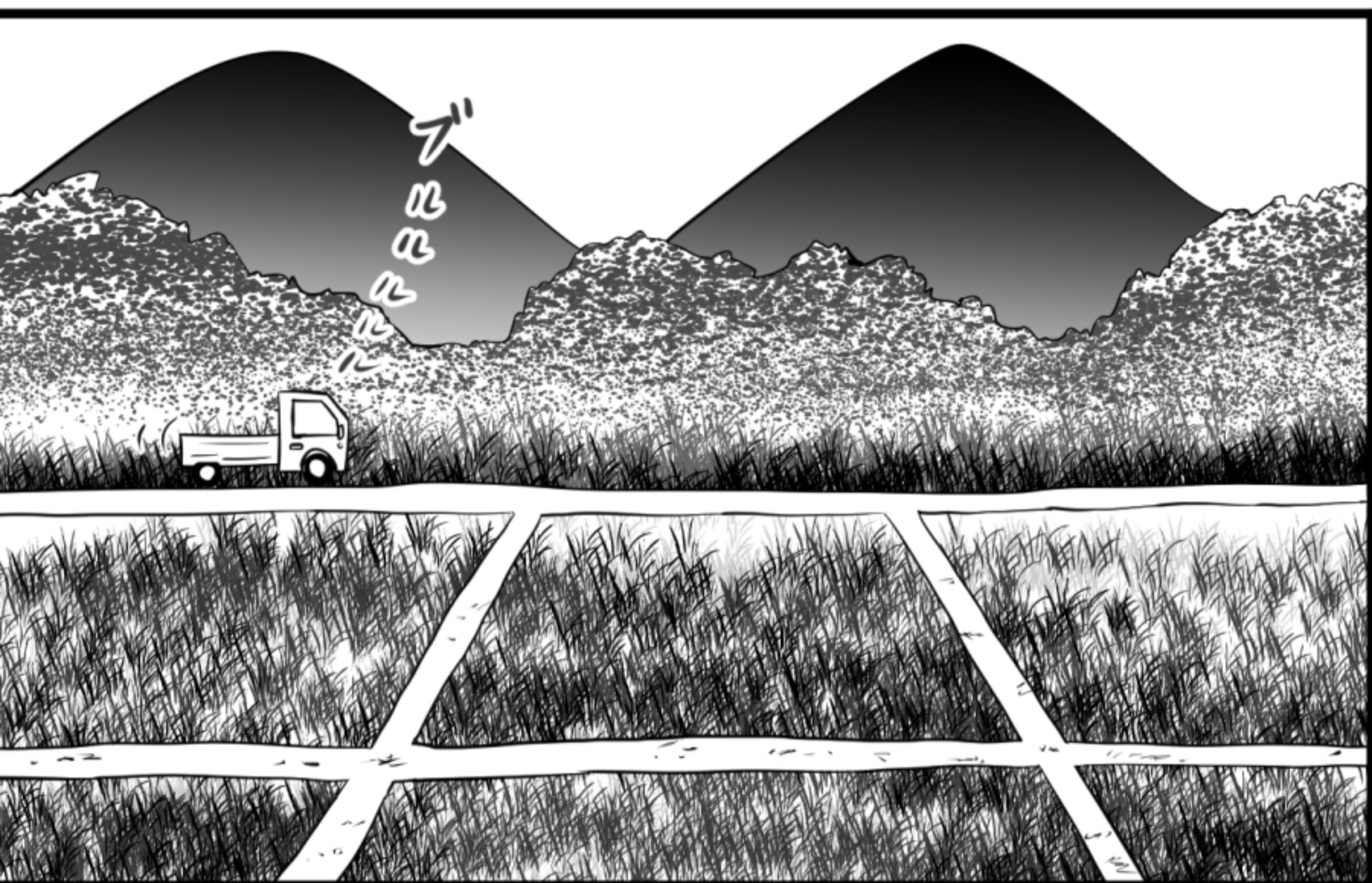
秘密を守ってくれるのなら



いいよ



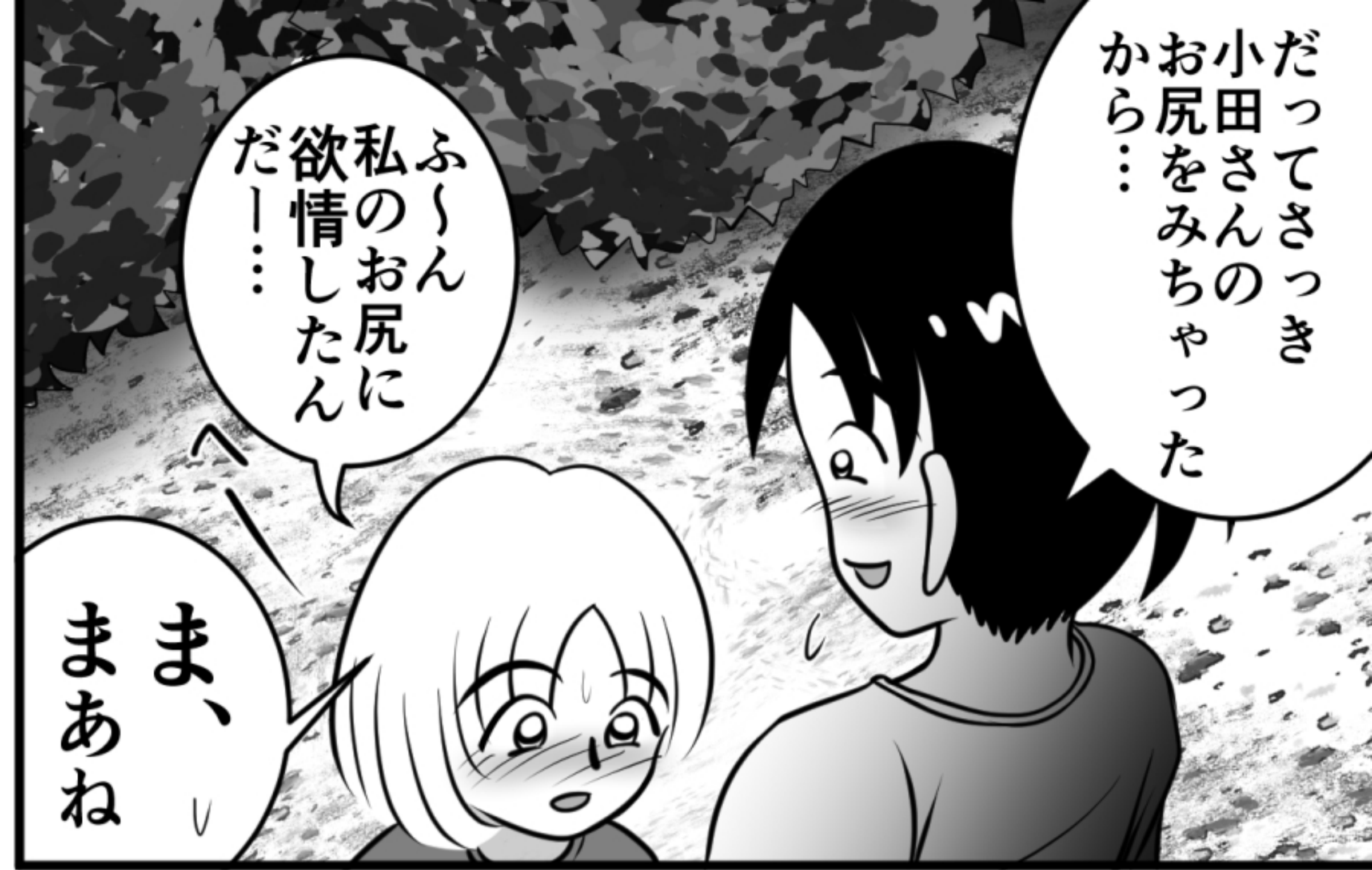
僕のオシッコを飲んでよ





小田さん!?

いざい



だってさっき小田さんのお尻をみちゃったから...

ふりんの私のお尻に欲情したんだー！

ま、まあね



ていうか自分で持ってるんだけど...

じゃあもう出すからね？



下に傾けないと入口にオシッコが入らないから

あっそう

でもそんなに強く握らなければ精液がたっぷり出でちゃいそうなんですけど...



うわっすごい勢！！

ゴボゴボ

